

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0670700608		
法人名	株式会社 ひまわり		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	山形県鶴岡市稲生一丁目3番5号		
自己評価作成日	令和1年11月11日	開設年月日	平成18年 6月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに合わせた生活リズムを大事にしながら余暇活動や生活リハビリを通してご本人らしい生活が出来るよう支援させて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番32号		
訪問調査日	令和 元年 12月 12日	評価結果決定日	令和 2年 1月 7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に入居した利用者は100歳を迎え、なお元気に過ごしていることから安心できるしっかりとした事業所の体制づくりがあげられます。代表は日々人間力を高める人材育成に取り組み、職員は各委員会(介護技術向上・接遇・給食・・・など)で自主性をもって役割を担い、人間として介護職員としての質向上をめざしています。利用者もまた自主性を大切に好きなことや得意なことを余暇活動にしながらその方のペースで毎日過ごし、ボランティアや保育園児の来訪で刺激ある楽しい時間も味わっています。また認知症サポーター養成講座や健康講座開催など地域の一員として情報発信し多くの参加を得るなど、地域に密着して貢献活動も続けている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の介護理念を作成し、職員間で理念を共有し実践に取り組んでいる。	介護理念には「これまでの人生を大切に」「その方らしく生き生きと」「一人ひとりの思いを尊重し」とあり、地域行事や郷土料理、地元新聞の提供など馴染みの物を普段の生活の中に多く取り入れ、できることを引き出しながら笑顔ある毎日に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々の訪問などにより交流している。	地域ボランティアの来訪は定例となり、歌や踊り、ギター演奏、子供神輿や保育園児の可愛い訪問もあり利用者の楽しみとなっている。また情報提供や健康講座開催、防災訓練への参加など地域の一員として取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域訪問や研修会への参加、情報交換及び情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生児童委員・介護相談員・御家族代表を含む10名で、運営推進会議を開催し、意見や情報交換をしてサービス向上に活かしている。	会議では2か月間の行事写真と共に活動内容や利用者の現状、ヒヤリハット、身体拘束について報告し、参加者から意見をもらっている。また行政や町内、家族等との情報交換の場として役立てサービスに活かしている。	開設して13年、運営推進会議の在り方を見直す時期でもあり、進め方を工夫して活発な意見交換の場になるよう、また議事録を整備して皆で共有するなど今後期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の連絡協議会への参加。 市の担当者との運営推進会議での情報交換。	市担当者からは運営推進会議への出席等で実情を理解してもらい、また電話で連絡を取り合って相談するなど協力関係ができています。介護相談員からは運営推進会議への参加や毎月の訪問で利用者の様子を報告してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての勉強会実施及びマニュアルの読み合わせにより、理解を深めている。 玄関は夜間のみ施錠。日中は解放している。	マニュアルを定め、委員会の活用や勉強会で身体拘束についての理解を深めている。丁寧な声掛けや職員間でも注意し合える環境に努め、ホールには必ず職員が常駐し利用者の所在確認を徹底して、チームワークで見守り安全で自由な生活を支えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会及びマニュアルの読み合わせにより、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護(成年後見制度)のマニュアル読み合わせにより、職員間での理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に十分な説明を行い、本人及び御家族に理解納得していただけるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様来訪時や遠方の方には電話でお聞きし意見要望に対応。 家族会での交流や運営推進会議での意見・情報などを運営に反映できるよう努めている。	家族等の来訪時には職員が声を掛け話を聞くように心がけ、意見・要望は申し送りや日誌、介護録で共有してリーダーが責任をもって対応している。また行事等で家族等とのコミュニケーションを図り、利用者の希望には沿えるよう努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所報告やリーダー会議での意見や提案を聞く機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との個人面談により対応。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修会及び勉強会開催。 外部研修会への参加。 希望する研修への参加支援。	内部研修は充実しており特に人材育成に力を入れ、人間力を高める為の勉強会を毎月実施している。外部研修は適任者を派遣したり案内を掲示して希望者が受講し、人間として介護職員としての質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加を通じて、情報交換などの交流を実施。 交換実習の実施。	県や市のグループホーム連絡協議会へ参加して情報交換しながらサービスの質向上に取り組んでいる。また職員は交換実習を通じて他事業所を知り、自事業所の良さを発見し課題を見つけ取り組みに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取り調査実施。 入居後もアセスメントなどにより理解を深め、コミュニケーションを図り、信頼関係を築くよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取り調査実施。 入居後も本人及び家族の要望に耳を傾けながら、信頼関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の要望を考慮しながら、必要なサービスが利用できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様を人生の先輩として尊重し、学びながら生活を共にする。関係を築けるように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の声に耳を傾けながら本人の声も尊重して、家族との連携を密にして共に本人を支えていくよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会。また馴染みの方への訪問や外出時の支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動及び季節行事を通して、利用者同士の関わりを持つ機会を作っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際のところ相談や支援はないが、受付体制は整っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話やアセスメントなどにより、本人の意向の把握に努め、困難な場合は本人を尊重しながら家族の考えを交えて検討している。	入居前の聞き取りと日頃の会話や様子から思いや意向の把握に努め、日誌や介護録に記載し職員間で共有している。好きな事や得意な事を余暇活動に活かしながら、希望に沿った暮らしができるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居後のアセスメントや申し送りなどで把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護録や申し送りなどにより、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人及び関係者の意見に耳を傾けながら、現状に即した介護計画を作成している。	今までの生活が続けられるように、利用者のペースやリズムを大事にしながら、介護看護記録をもとに現場の意見を聞いて介護計画を作成している。サービスに沿わない時や体調に変化があった場合は速やかに見直しを図り、現状に合ったプランとなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入により、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方の訪問や町内散歩時の挨拶や声かけなどの支援。 ボランティア団体との交流。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医・医療機関は本人及び家族により自由に選択していただいている。必要に応じて情報提供などを行い、安心して生活していただけるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を優先し、通院が困難になった時は往診のある医療機関に変更する場合もある。受診時は利用者の心身情報を書面で医師に提供し、結果や指示内容を書きってもらい共有を図りながら健康管理に努めている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理に努め適切な受診ができるよう支援している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や医療機関との情報交換及び提供や相談を行いながら、関係作りに努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族との話し合いで意向を確認。随時本人や主治医と話し合い対応できるように支援している。	重度化した場合の対応に係る指針や主治医との連携のもとに看取り体制を整えている。職員は看取り介護の研修を重ねて経験もしている。利用者の状態変化に応じて家族等へ主治医からの説明や話し合いを行い、同意を得ながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの回覧と研修。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施。 避難場所及び避難方法の確認を周知している。	定期的な避難訓練を実施し、地域の防災訓練にも参加している。利用者の避難の際に地域からの協力や初期消火訓練にも参加してもらい安全安心に繋げている。国の示した災害情報の改正に伴い、新たなマニュアルの作成に着手している。		災害時等に、利用者の情報等を入れる非常持ち出し袋(リュックサック等)や頭巾等(ヘルメット)の用意、また防災訓練等を行った際の講評や反省点などを記録に残し、次回に繋げることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会及びマニュアルの回覧により、理解を深めている。人生の先輩であるという尊敬の気持ちを忘れず、相手を尊重しながら優しい言葉かけで接している。	利用者の人格や尊厳、プライバシーを守るため、接遇マナーや守秘義務等の研修を行いケアに活かしている。利用者の生活歴や何ができていたかなどの情報と日常生活での記録を活用し、職員同士の共有を図りながら支援している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	心身及び他者との関係が悪化しない事柄については、できるだけ自己決定ができるよう複数の選択肢を提供できるように努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのこれまでの暮らしを尊重しながら、生活習慣やペースを考慮して支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望も含め、美容室に出掛けたり、お化粧品して、身だしなみにも気を配るよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食事形態を考慮し、準備や後片付けを職員と一緒にやっている。	利用者の好み、検食した感想を調理部門の栄養士や調理士に伝え献立や調理に活かしている。一人ひとりの状態に合わせてろみやきざみ食、水分が取れない方にはゼリー状にするなど、おいしく食べられるよう見た目にも工夫し提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事量や食事形態を提供している。食事や補水などをチェック表に記入している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは本人の能力に応じ、できないところを職員が介助し、清潔保持できるよう支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握・時間や様子を見ながらのトイレ誘導と声かけを行っている。	排泄チェック表で一人ひとりに合わせた声掛け・誘導を行い、入居時介護度4の方が周りに刺激を受けトイレでの排泄に意欲的になり、介護度2までレベルアップするなど取り組みの成果も表れている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便や補水量のチェックと管理を実施している。飲み物の代わりにゼリーの提供などや毎回健康体操を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調を考慮しながら、定期的及び随時対応している。	入浴は週2回午後となっているが、入りたい方には臨機応変に対応している。身体状況に合わせて二人介助も行き、入浴前のバイタル測定や脱衣室・浴室の温度にも配慮し、手摺り・滑り止めの安全管理で安心に繋げている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に合わせて、休憩や睡眠を支援している。起床や就寝時間においても同様に各個人のペースに合わせて支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を近くに置き、使用目的や薬効を把握し、薬管理と服薬チェックをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や趣味を大事にしながら支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事の外出や散歩など、本人の希望や家族の意向を尊重しながら支援している。	近くのスーパーや地域の花壇を観に行くなど日常的に散歩をしている。季節ごとの花見や紅葉狩りなどには、車椅子の方も一緒にドライブに出かけている。会社主催の運動会には、パン食い・タイ釣り・玉入れ・リレー競争などに参加して楽しんでいる。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物でのお金のやり取りの援助と支援を行っている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時の対応や代理で電話をかける援助や支援も行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた、空調調整や館内整備に努めている。 好みの音楽や時期に合わせた掲示物の配置など居心地よく過ごせるように努めている。	テレビの前にソファを置き皆で見られるようにし、利用しなくなった畳の場所をフローリングに替え、広く動きやすいリビングで初夏には満開の藤の花を眺め寛いでいる。空気の流れや室温の均一化のため天井にクーリングファンを設置し、加湿器・空気除菌脱臭機で感染症予防に努めている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御利用者様同士の相性なども考慮しながらテーブルやソファを配置し、居場所作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や私物を配置することで、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	家電品等の持ち込みや馴染みの物を飾り、自宅とのギャップが少ない環境づくりで自分好みに設えている。居室の掃除は毎日午後から行い、毎月29日には福の日(拭くの日)を設け、職員と共に利用者も拭き掃除をして清潔を保っている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や床のバリアフリー・オープンリビング・家具の配置などで建物内部はできるだけ安全に、かつ自由に移動できるような環境作りに努めている。			